

# 開催要綱

※展覧会の名称は変更する場合があります。

開館15周年記念特別展Ⅲ・琳派展 X V

## 琳派の伝統とモダン －神坂雪佳と江戸琳派－

平成25年 10月12日(土)～12月15日(日)

※会期中展示替有

細見美術館

開館15周年記念特別展Ⅲ・琳派展XV

# 琳派の伝統とモダン

## －神坂雪佳と江戸琳派－

平成25年 10月12日(土)～12月15日(日)

前期：10月12日(土)～11月17日(日) 後期：11月19日(火)～12月15日(日)

本展覧会では、収蔵品の中でも高い人気を誇る神坂雪佳(1866～1942)を中心に、鈴木其一(1796～1858)以降の江戸琳派の作品も交え、彼らの挑んだ伝統の継承と、新時代を見据えた意欲的な展開を探ります。

近代の京都に光悦や光琳の作風を甦らせ、さらに独自の様式を確立した雪佳。江戸から東京へと変貌する東都において、抱一以降も長く活躍を続けた江戸琳派。両者を主軸とした初の展覧会で、細見コレクションならではの試みとなりましょう。

当館の琳派コレクションの展示を通じて日本美術のもつ優美さ、纖細な感性、時に大胆なほどの力強さに触れていただけましたら幸いです。

## 開館15周年記念特別展

細見美術館は平成10(1998)年、京都・岡崎に開館し、日本美術を中心にさまざまな視点から展覧会を行ってきました。

大阪の実業家、初代・古香庵(1901～1979)に始まり、3代にわたって蒐集された収蔵品は縄文、弥生時代の土器から近代の琳派画家の作品まで、日本美術史を辿る多様な作品からなります。

このたび当館では、細見美術館開館15年を記念する特別展の第3弾として、また恒例の琳派展の第15弾として「琳派の伝統とモダン－神坂雪佳と江戸琳派－」を開催いたします。



四季草花図屏風 神坂雪佳

## 展示構成

### 1 神坂雪佳と京の雅趣 —光悦・光琳への憧れとモダン—

琳派誕生の地、京に生まれ、四条派に学んだ神坂雪佳(1866~1942)は、23歳より工芸界の指導的立場であった岸光景のもとで工芸図案を学びます。京で培われた工芸技術をさらに生かすため、新しい時代に見合った図案の必要性を痛感し、京の工芸振興に努めました。欧州での博覧会視察、工芸図案の調査等を機に、改めて日本の装飾藝術として琳派を高く評価するようになります。雪佳は、本阿弥光悦(1558~1637)や尾形光琳(1658~1716)の研究を熱心に行なったことでも知られ、自身も琳派をお手本とし、デフォルメやクローズアップなど、琳派特有の手法を用いて新感覚の琳派様式を開拓しました。

今や海外でも高く評価される雪佳は、絵画や工芸といった領域にこだわらず、むしろ両分野を自在に行き来をして生活を彩る美しく楽しい作品を生み出しました。その姿勢は、雪佳が憧れた光悦や光琳の創作姿勢にも重なります。

#### [主な作品]

|           |       |         |                  |
|-----------|-------|---------|------------------|
| 金魚玉図      | 1幅    | 神坂雪佳    | 明治期              |
| 四季草花図屏風   | 6曲1双  | 神坂雪佳    | 大正期              |
| 十二ヶ月草花図   | 12面   | 神坂雪佳    | 大正期              |
| 白鳳図       | 1幅    | 神坂雪佳    | 昭和元年             |
| 楓鹿図赤楽香合   | 1合    | 神坂雪佳案・画 | 五代清水六兵衛・作<br>大正期 |
| 若松鶴図文机・硯箱 | 1基・1合 | 神坂雪佳案・画 | 大正期              |
| 『百々世草』    | 3巻    | 神坂雪佳    | 明治42・43年(芸艸堂刊)   |



伊勢物語図扇面「河内越」 神坂雪佳



金魚玉図 神坂雪佳

## 出品作品



白鳳図 神坂雪佳



楓紅葉図 神坂雪佳



『百々世草』より 神坂雪佳



『十二ヶ月草花図』より 神坂雪佳



若松鶴図文机・硯箱 神坂雪佳案・画



楓鹿図赤染香合 神坂雪佳案・画 五代清水六兵衛・作

## 展示構成

### 2 江戸琳派の粹 一抱一風の名残と新たな試みー

酒井抱一(1761～1828)にはじまる江戸琳派は、光琳をはじめ京琳派の伝統的な装飾性に、写実性や江戸らしい洒脱味を加えた新たな様式として展開しました。抱一の高弟・鈴木其一(1796～1858)は、明快かつ大胆な表現を用いてモダンで先進的な作風を築くとともに、多くの弟子を育成して江戸琳派様式を広めました。

彼らの様式は、江戸から東京へと移り変わる時代の中で、近代日本画家たちに多大な影響を与えることとなります。また、抱一の流れを汲む江戸琳派の画家たちも、鈴木守一(1823～89)、酒井道一(1845～1913)ら多くが博覧会等への出品や受賞を重ね、江戸琳派の様式は、新しい時代にもその存在感を示しました。一方、近代化が進む中、江戸の美意識を懐かしく愛おしむ人たちも多く、江戸琳派様式は、昭和前期頃まで描き継がれました。

#### [主な作品]

|           |                |
|-----------|----------------|
| 朴に尾長鳥図    | 1幅 鈴木其一 江戸後期   |
| 四季草花流水図屏風 | 2曲1隻 池田孤邨 江戸後期 |
| 楓桜紅葉図     | 双幅 鈴木守一 江戸後期   |
| 白菊に水仙図    | 1幅 中野其明 明治期    |
| 四季草花図屏風   | 6曲1双 山本光一 明治期  |
| 紫陽花図      | 1幅 酒井道一 明治期    |
| 鯉に燕子花図    | 1幅 酒井唯一 明治期    |



朴に尾長鳥図 鈴木其一

## 出品作品



水辺家鴨図屏風 鈴木其一



白椿に楽茶碗花鉄図 鈴木其一



業平東下り図 鈴木守一



楓桜紅葉図 鈴木守一



白菊に水仙図 中野其明



紫陽花図 酒井道一



鯉に燕子花図 酒井唯一

## 基本情報・お問合せ

開館15周年記念特別展Ⅲ 琳派展XV

### 琳派の伝統とモダン－神坂雪佳と江戸琳派－

平成25年 10月12日(土)～12月15日(日)

前期：10月12日(土)～11月17日(日) 後期：11月19日(火)～12月15日(日)

開館時間 午前10時～午後6時(入館は5時30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)

入館料 一般1,000円(800円) 学生800円(600円)

※( )内は20名以上の団体料金

会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

TEL075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

出品作品点数 約70点

お問合せ先：広報担当 三宅 由紀

TEL/ 075-752-5555 FAX/ 075-752-5955

E-MAIL/ [kouhou@emuseum.or.jp](mailto:kouhou@emuseum.or.jp)

#### 【期間中のイベント(予定)】

##### ① 館長と巡るギャラリーツアー

講師 細見良行(細見美術館 館長)

##### ② ギャラリー講座

講師 岡野智子(細見美術館 上席研究員)



四季草花図屏風 山本光一